

老舗名	笠仙 C組 1班
Q.1	<b>染め物づくりへのこだわりはなんですか。</b>
A.1	今の世の中で一般的に出回っている技術(洋服等のプリント印刷)ではなく、生産効率は低いが、江戸の頃より伝わる変わらない技術での物造り。
Q.2	<b>買いに来る人はどんな年齢層の方ですか。</b>
A.2	ご自分でご購入求めになられる方だと、20代後半から。小さなお子様もお婆様やお母様いらしてお召しになられるという事はあります。
Q.3	<b>染め方は普通の染物屋さんとの違いはありますか。</b>
A.3	一言で「浴衣(ゆかた)」と言っても笠仙で生産している商品は種類が多岐にわたっており、それぞれ染色の技術が違います。中には藍染めもあれば、着物と同じ技術を用いて染め上げている商品もあります。
Q.4	<b>染め物の魅力を若者に伝えようと工夫していることはありますか。</b>
A.4	手作り感を実際に商品を見ると伝わる部分があると思います。商品の特性上、使えば使うほど味が出る品物であり、時代に流されない商品作りにより、今の世の大量生産では出し得ない繊細さと味わいを伝えております。言葉や文字という事であれば、HPやFBでの発信により笠仙を知らない人に対しての発信をしております。実際に直接お伝えできる販売などの機会だと、日本橋の店舗はもちろん百貨店等で催されている物産展に全国規模で出店しており、そこで商品と共にご紹介をさせて頂いております。
Q.5	<b>浴衣をつくる時にどれくらいの職人の数が必要ですか。</b>
A.5	染め(技術)の種類にもよりますが、下職も含めると20件程の工場や職人の手を経てそれぞれ出来上がっております。
Q.6	<b>外国の方は買いに来ますか。</b>
A.6	近年は多くご来店されるようになりました。近くに外資系のホテルが開業するなど、日本橋の街自体が活性化しているほか、インターネットの情報を入手して調べてご来店されております。
Q.7	<b>染め物を染めるときに使う道具はなんですか。</b>
A.7	ヘラ、ハケや縦の長い一枚板。材料だとノリや染料。そして笠仙で一番重要なのは柄を染める為の「型紙」です。
Q.8	<b>新しい商品を開発する際の工夫はなんですか。</b>
A.8	メイン商品の「浴衣」では、他社では作れない商品特性や時代に即した図案の作成を心掛けております。そこから派生した物造りでは、一筆箋やミニバッグ、USBなど生活に密着したアイテムをラインナップして開発し、日常に和の物を取り入れた生活のご提案をしております。
Q.9	<b>ちなみに今流行りのデザインを教えてください。</b>
A.9	時代と共に変わりますが、近年では「紹(ろ)」という素材が人気があります。デザインは文字にすると難しいですが、色や柄の一押しをポスターやDM製作に取り入れておりますのでご覧下さい。